

日本フィギュアスケーティングインストラクター協会 (JFSIA)の歩みと活動

【はじめに】

日本フィギュアスケーティングインストラクター協会(JFSIA)は、全国の指導者が共通の目的のもとに連携・協力し、指導技術の向上とフィギュアスケート界全体の発展を目指す専門団体として活動しています。札幌五輪以降、競技力向上やレクリエーションスケーターの普及を目指し、現場の第一線で活躍するインストラクターの学びと交流の場、そして未来を担うスケーター育成の基盤として成長してきました。

【JFSIA 年表】

1964年(昭和39年)

全国で活動する12名のインストラクター

稲田 悦子 片山 敏一 塩田 直重 加藤 禮子 小林 進

西倉 幸男 都築 章一郎 重野 和哉 大武 妙子 田中 鉄太郎

山下 艶子 道家 豊(順不同、敬称略)

により、懇親と情報交換を目的とした団体が設立。これがJFSIAの原点となる。

1965年～1975年

関東・関西・北海道など各地の指導者が参加し、活動が全国へと広がる。自主的な勉強会が開催され、リンク間の技術格差是正が大きな課題となる。

1976年

初の全国指導者研修会を開催。競技ルールの共通理解と、指導法の統一が図られる。会員数は50名を超える。

1980年

ジャンプ・スピン・初級者指導の方法が書籍化され、全国的な技術共有が進む。

1985年

全国を7ブロックに分けた講習・交流体制が整備され、全国総会が制度化される。

1989年(平成元年)

全国総会にて、国内外の大会で優秀な成績を収めた選手の指導者を表彰する制度が導入される。(ゴールド/シルバーピン授与)

1990 年

会員数が 100 名を超える。審判・アドバイザーとして主要大会で活動する会員が登場。スポーツインストラクター資格制度の発足を機に法人化を模索するが、日本スケート連盟の公益法人化により、単独法人化は見送られる。

1995 年

文部省公認の「資格認定制度」を日本フィギュアスケートインストラクター協会が取り入れ、会員の社会的な地位向上を目指し、プロジェクトチームを結成。

2000 年

ISU ルールの変化に対応する指導者研修を開始。技術進化に柔軟に応じる教育体制の構築が始まる。

2006 年

現在の「JFSIA」として正式に再編・設立。会則、理事会制度が明文化され、全国的な認知が広がる。

2010 年

会員数 200 名を突破。研修に「コーチング理論」「メンタルサポート」「保護者対応」など、より実践的な内容が加わる。

2020 年

新型コロナウイルスの影響により、対面講習会が中止・延期に。Web 研修を初実施し、オンライン活動への移行を本格化。

2022 年

オンライン活動が定着。地方在住の若手インストラクターの参加が増加し、世代交代が進む。

2024 年

創設 60 周年に向けた記念事業を準備。会員数は 400 名に迫り、全国のスケート現場にインストラクターが関与する体制が確立。

2025 年(令和 7 年・現在)

全国 400 名以上のインストラクターが所属。日本のフィギュアスケート界を「教える力」で支える専門団体として、未来のスケーターと共に歩み続けている。